

日本高等教育評価機構におけるアウトカムの考え方

伊藤 敏弘

(日本高等教育評価機構)

1. はじめに

平成 20 年に出された「学士課程教育の構築へ向けて（答申）」の提言を受けて、これまでは「何を教えるか」というインプットの考え方から、成果として「学生は何ができるようになるか」というアウトカムを中心とした学修成果を明確に示すことが大学に求められるようになった。この答申を受けて認証評価の第 2 サイクルでは各認証評価機関ともアウトカムを重視した評価を行っているが、それぞれの評価機関で重視する程度は異なっている。当機構におけるアウトカムの考え方を示し、機関別認証評価で求められるアウトカム評価のあり方について問題提起したい。

2. 認証評価とアウトカム評価

平成 24 年 6 月に文部科学省が発表した「大学改革実行プラン」では、平成 25 年度から逐次進められる「評価制度の抜本的改革」のなかで、「学修成果を重視した評価～インプット中心から、プロセス・アウトカムを重視した評価へ～」とした改革が行われる予定である。しかし、同年 3 月の「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）」においては、「速やかな研究・開発を推進する必要がある」というようにアウトカムの測定や把握についてはいまだ研究の段階にある。

3. 日本高等教育評価機構のアウトカムの考え方

当機構におけるアウトカム評価に関する内容については、他の認証評価機関と比べてあまり強く大学へ求めている。それは、各大学におけるアウトカム評価は、まだ研究の段階にとどまっているのが実態であると考えているからである。当機構では、基準項目 2-6 において、「教育目的の達成状況の評価とフィードバック」として「2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発」と評価の視点を設け、努力義務的な形で大学に求めている。

4. おわりに

アウトカムについては、大学が必ず確認すべき重要な事項であるが、客観的に評価することは、現段階では難しい状況にある。また、プログラム評価として、アウトカムが明確な特定の分野である専門職大学院認証評価と複数学部を有する大学を対象とした機関別認証評価では、当然ながらそのアウトカムの扱いは異なってくるはずである。全分野を対象とした機関別認証評価におけるアウトカム評価のあり方については、さらなる検証が必要である。